



# 羅針盤

安部 正敏  
Masatoshi Abe

医療法人社団 廣仁会 札幌皮膚科クリニック 院長  
Visual Dermatology 編集委員



## 人を以て鑑と為す……ルーチンを知ること あなたの診療は 101 倍充実する！

本臨時増刊号の特集は“皮膚科医の習慣(ルーチン)”である。毎年1号世に問う増刊号において、編集委員会としてはかなり異色の特集テーマとした。本誌は医学雑誌として科学を追及する使命を負うが、同時に商業誌でもあり大勢の先生方に手に取って頂きたい、一人でも多くの皮膚科医の知的好奇心を満足したいという信念で編集を続けている。最近のビジネス書のトレンドの一つに“習慣”がある。新型コロナウイルス感染症対策として在宅勤務が増えオンライン会議が当たり前となった世の中において、ビジネスマンは先輩、同僚と直接共有する時間が激減したことから、仕事が自己流となりがちとなった。その際、率先垂範な行動をとる人物が、どのような習慣を持ち仕事そして人生を成功に導いているのか？ その習慣を学ぶ書物である。ここでの書物の意味は大きく、まず左様な人物と実際に行動をとるにすると余程のコネがなければ無理である。SNSにその答えを問う場合、情報の信頼性の担保がない。例えば先進的ベンチャー企業が実は火の車であるなど、枚挙に暇がない。他方、書籍はその道のプロが理想的人物を厳選しその習慣を客観的に追体験することが可能である。しかも安価で！

皮膚科専門医に目を転じると、とくに筆者のようなクリニック勤務医は、他の医師の外来診療をはじめとする皮膚科医の“習慣”に接する機会はなかなか少ないことに

気づく。基幹病院であっても皮膚科は人員が限られていることが多く、このような機会は少ないと思われる。他の医師の習慣をみることはとても大事であり、たとえ後輩であっても患者への接遇や情報整理方法など、目からウロコの珠玉の見聞の宝庫である。“人を以て鑑と為す”とは、唐の時代、魏徴の死去に対し太宗が「鑑を失った」と嘆いたところからきており、意味は文字通りである。ただ、そんな大それた特集ではなく、お好きな時間にお好きなところで紙面でその道の達人の外来陪席をして頂ける、手軽な101(ワンオーワン、入門講義のこと)を目指したものである。

今回お忙しい中、それぞれのルーチンをご執筆頂いた先生方のご玉稿を拝読すると、自らのそれとの違いとともに、さまざまな学ぶべきヒントが満載であった。責任編集者として自画自賛で恐縮だが、まさに編集委員会の意図通り、過去に類を見ない増刊号となったと自負している。読者の先生方におかれましては、達人のルーチンを追体験し、吟味の上自らの診療術の一部にしていだければ、仕事が101倍充実し、楽しくなるものであると確信する次第である。もし読者の先生方でオリジナルな模範的ルーチンをお持ちの先生は是非ご一報下さい。本特集が先生方の熱いご支援を頂き Visual Dermatology の“ルーチン”となりますように……。